

## 教科等研究会（小学校体育部会）

### 令和元年度 研究活動のまとめ

#### 1 研究テーマ

『児童一人ひとりがかかわり合い、運動の楽しさや喜びを味わう体育学習』

#### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6月3日	38人	高木小	10月4日	嘉島西小	安部拓哉	11月15日	甲佐中	小中合同	1月23日	広安西小	服部祐政

#### 3 研究の概要

##### (1) 研究の内容

##### ① 研究テーマ設定の理由

令和2年度より新学習指導要領が完全実施となる。その中で小学校の体育は、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指している。

この目標を達成するために、技能を身に付けることを中心とした学習だけでなく、仲間とかかわり合いながら、児童一人ひとりが運動の楽しさに触れ、生き生きと学習に取り組む体育学習を目指して本研究テーマを設定した。また、「できるようになりたい」という児童の願いや苦手な児童の不安に寄り添いながら、すべての児童が楽しく参加できる手立てやかかわり合いを活発にするための手立てを中心に研究を進めることにした。

##### ② 研究の実際

ア 研究授業① 6年「ボール運動（ソフトバレーボール）」 授業者 安部拓哉 教諭（嘉島西小学校）

苦手な児童もボールに触れることができるようルールを工夫した授業であった。また、かかわり合いを活発にするために学習シートが工夫され、ボールの落下地点のデータを蓄積し、そのデータをもとに話し合いを行っていた。中学校部会と合同で行い、授業研究会では中学校側からも活発な意見が出された。

イ 中学校との情報交換会

郡内の各中学校の体力向上の取り組みを聞いた。中学校の体力の現状がわかり、小学校と中学校の情報交換を図ることができた。

ウ 研究授業② 6年「器械運動（跳び箱運動）」 授業者 服部祐政 教諭（広安西小学校）

児童の実態に応じた多くの場が準備され、跳び箱に不安を持つ児童も安心して取り組むことができる授業であった。また、跳び箱が得意な児童と苦手な児童を組み合わせた3人組を編成し、技のポイントを考えたり、練習の成果を確認したりするなど学習グループの工夫がなされていた。

##### (2) 成果と課題

##### ① 成果

- 児童の実態をよくつかみ、児童の思いや願いを大切にされた指導ができていた。
- 身に付けさせたい力を明確にして学習計画を構想し、見通しをもった学習が展開されていた。
- どの授業も運動が苦手な児童を中心にして、全員の児童が楽しく参加できる場づくりや教具の工夫がなされていた。
- 学習内容の定着を図るためにルールや作戦の工夫がなされ、児童の技能向上や仲間とかかわり合いを深めることができていた。

##### ② 課題

- 学習指導要領の改訂に伴い、もう一度単元を通して身に付けさせる力を確認しておく必要がある。
- 学習課題についてかかわり合いを通して何を話し合わせるのか、どこに着目させるのか、明確にしておかなければならない。

#### 4 実践事例 6年「器械運動（跳び箱運動）」 授業者 服部 祐政 教諭（広安西小学校）

##### （1）授業の概要

###### 【自評】

- 児童が互いにかかわり合いながら、少しでも「楽しい」「おもしろい」と思える跳び箱の授業を目指した。実態では、跳び箱が苦手な児童もいた。そこで、新しい技に挑戦させながら協力して達成感を味わえるような授業づくりを目指すことにした。特に、苦手な児童が、安心して取り組めるような場づくりを工夫した。苦手だったA君は、周りの児童とかかわり合いながら、できなかった技ができるようになった。「おもしろくない。」と言って活動に参加していなかったBさんは、今日の授業で学習カードの「楽しい」の項目に◎を付けていた。反省としては、場が多く全体をしっかり見取ることができなかった。

###### 【質疑応答】

- Q1：前時までの様子はどうだったのか。  
A：踏切が弱かったので課題として新しい場を増やした。横からお互いに見合いながら行ってきた。踏み切り、着手、回転、着地4つのポイントをいつも押さえていった。
- Q2：一斉指導の場面での狙いは何か。  
A：4つのポイントの確認と例を説明したかった。
- Q3：子どもたちが自分の課題をどのようにとらえて授業に臨んでいたのか。  
A：台上前転まで指導して、初めてする技はICTを使ってポイントを押さえていった。
- Q4：技の出来栄を確認できていたのか。  
A：学習カードの「◎○△」で確認していった。

###### 【グループ協議】

- 場づくりについて
  - ・ 児童の希望から作られた場だったので、児童のやる気も上がっていた。
  - ・ 場がたくさんあって苦手な児童にとってはとてもよかった。使われなくなった場は、発展技の場に変えていくとよいのではないかな。
  - ・ たくさんの場があり、活動が保障され、運動量の確保につながっていた。
  - ・ 児童の意欲が高まる場だった。マットを横から持って補助しているグループもあった。場の目的について、児童自身が把握する必要がある。
  - ・ 苦手な児童に注目した。自分の選んだ場に移動しながらできるようになった。その児童の運動を保障できていた。
- ICTの活用について
  - ・ 技のイメージを持つために大変有効だった。何が大事かを押さえることができればよかった。
  - ・ 児童の出来栄を確認することもできるのではないかな。
- かかわり合いについて
  - ・ 異質グループでは、自分の苦手な部分を発信できるようになるとよい。
  - ・ 児童が素直でお互いを認め合う言葉が多かった。
  - ・ アドバイスの仕方、見る位置、ポイントを明確にすると、さらに学び合いが活性化していくと思う。
  - ・ オノマトペを活用するとより共有できる。
- その他
  - ・ 運動が苦手なA君が、学習カードの振り返りですべての項目に「◎」を付けていたのがよかった。
  - ・ 発見ボードに、付箋で感覚的な気づきを貼れるようにするとよい。
  - ・ 伸膝台上前転ができていたのがすごい。児童が技の段階をしっかりとらえていた。
  - ・ 児童が最後まで活動していた。なぜ、伸膝台上前転を学習するのか。系統を考えて取り組むとよりよい指導ができる。
  - ・ 安全面について、髪の毛が長い子への指導、安全面への配慮は最善を尽くす必要がある。

###### 【助言・まとめ】

- 見ていて心が温まるいい授業を見せてくれてありがとうございました。学級経営と体育の授業は関係がある。児童の笑顔や声掛けがあったかくてよかった。服部先生も落ち着いて授業ができていた。（運動が苦手な）A君が練習できる場が4つもあり、場の工夫がなされていた。ICTの活用については、児童が動画を見て動きを確認していた。リピート再生が有効だった。発見ボードは、教え合いの言

葉も有効に使われていたが、まだ改善点はある。学習グループの3人組の組み合わせ等により、A君が踏切の場で練習していた時、Cさんがやってきてアドバイスをするような場面が見られた。教え合いの活性化に役立っていた。

児童の「できるようになりたい」という思いにつながる授業だった。課題として、児童の自己決定性があげられる。自分がやりたいことが一番のモチベーションになる。対応が可能かという点と折り合いをつけながら、児童のニーズに合った内容を考える必要がある。児童がやりたいことができる体育授業を目指して行ってほしい。

## (2) 学習指導案（一部抜粋）

### 第6学年3組 体育科学習指導案

日時：令和2年1月23日（木） 第5校時

場所：体育館

指導者：教諭 服部 祐政

講師 渡邊 紘之（特別支援学級）

#### 1 単元名 「広西 2020 オリンピック！」（B 器械運動 ウ 跳び箱運動）

#### 2 単元について

##### (1) 運動の特性

- ①高学年の器械運動は、「マット運動」、「鉄棒運動」及び「跳び箱運動」で構成されている。
- ②器械運動は、回転したり、支持したり、逆位になったりするなどの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

##### (3) 児童の実態（男子18人 女子23人 計41人）

9割の児童が体育の学習が楽しいと答えているが、3人の児童があまり楽しくないと答えている。理由としては、「できないから」「みんなと一緒にできる運動に限られているから」「跳び箱があまり好きではないから」が挙げられていた。跳び箱運動の学習は、跳べないからという理由や苦手意識があるからという理由で、楽しくないと感じていた。

友達のアドバイスを生かすことが好きであるという質問に対して、肯定的に感じている児童が多いため、かわり合いが多くできるよう手立てを行っていく。また、どんな跳び箱の授業にしたいかという質問に対して、「楽しい授業」「できない技ができるようになる授業」「協力する授業」にしたいと考えている児童が多いことが分かった。

##### (5) 指導上の留意点

指導にあたっての留意点は以下のとおりである。

- ・体育の学習（跳び箱運動）が好きではないと感じている児童が数人おり、技能面でも個人差があることから、単元をとおして誰にでもでき、主運動につながるような易しい運動をスイッチオンタイムで行うことで、学習に意欲的に取り組めるようにする。
- ・導入では、前時までの振り返りから課題を共有し、本時のめあてを立てるようにする。展開では、対話をとおして自己の課題や友だちの課題を解決していくことができるよう、技の連続図の掲示や、段階的な場の工夫など苦手な児童への支援を行う。終末では、学習カードで本時の学習を振り返らせ、できるようになったことや学び方をふり返り、次時につなげる。
- ・運動を楽しんでいる視点として、「技ができたとき」「教え合いをするとき」という児童のアンケート結果から、技の連続図を掲示したり友だちへの補助の仕方を示したりして、お互いにこつやポイントを伝え合えるようにする。
- ・配慮が必要な児童等への指導に関しては、特別支援学級担任が横に付いて補助を行い、困難さに応じた手立てを講じる。
- ・「分かった」「できた」と実感できるよう、技のこつやポイントを一斉指導場面で共有化し、発見ボードにまとめる。そのポイントを使いながら練習をして、確かめることができるようにする。また、ポイントをつかむことができていない児童に対しては、子ども同士や教師による適切な補助を行ったり、短い言葉で技のこつの理解を促したり、易しい場から練習できるようにしたりする。さらに、難易度ごとの場を設定することで、単元を通して子どもたちが技能を身に付けることができるようにする。
- ・試しの運動と確かめの運動を3人組で行い、お互いにアドバイスをしながら、上達していけるようにする。さらに、アドバイスをし合ったり励まし合ったりしている姿を取り上げたり、学習カードに記入されている文を紹介したりしながら、仲間とのかかわりがより温かいものになるようにする。

5 本時の学習（5／8時）

(1) 目標・・・自己の能力に適した課題を見付け、その課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができる。【思考力・判断力・表現力等】

(2) 展開

過程	時間	学 習 活 動	○教師の支援	評価	備考
見通す	8分	1 場づくり・準備運動・スイッチオンタイムに取り組む。 2 本時の課題をつかむ。	○和やかな雰囲気の中で運動の心地よさを体感させ、苦手意識を持つ児童を運動へ引き込む。 ○単元計画表を用いて、本時の見通しを持つ。		・BGM ・単元計画表 ・跳び箱 ・マット ・ロイター板
<b>友達と協力しながら自分の課題を見つけ、自分に合った練習をしよう。</b>					
考える・伝えあい学び合う	5分 5分 14分 5分	3 レベルアップタイム (1) 動画を見て、技のポイントを全体で共有する。 (2) 3人組で伸膝台上前転のこつやポイントを考えながら試しの運動を行う。  〈ポイント〉 台上前転 ①両足で強く踏み切り、腰を高く上げる。 ②跳び箱の手前側の脇に両手を着き、しっかりと体を支える。 ③あごを引いて後頭部を着いて、背中を丸めて前転する。 ④膝を曲げて着地し、静止する。 伸膝台上前転（上記プラス） ② 腹の前に空間を開ける。 ③ 膝を伸ばしたまま前転する。  (3) 全体で共有したこつやポイントを意識しながら自分に合った場で練習をする。 (4) 3人組で練習した技を見合い、できや伸びを確認する。	○4つの視点（踏み切り、着手、跳び箱上、着地）から、台上前転との違いに着目させ、技のポイントを押さえる。 ○技のこつを子どもの「イメージ言葉」で表し、自分達で伝えやすくできるようにする。 ○ICTを活用し、技のイメージをもたせる。 ○児童が自分の課題に合わせて、試行錯誤する時間を確保する。 ○互いに声をかけ合ったり励まし合ったりしている児童を称賛することでさらにかかわり合いが深まるようにする。		・跳び箱 ・マット ・ロイター板 ・発見ボード
			<p><b>【思考力、判断力、表現力等】</b>  <b>B：自己の課題を見付け、自己の能力に合った技を練習するための場や段階を選ぶことができる。</b>  <b>Bに達しない児童への手立て</b>                  ポイントの4つの視点に着目させながら、互いに技を見合い、できていないポイントに気付かせる。                  （観察・学習カード・発言）</p>		
確かめる	8分	4 本時の学習をまとめる。 (1) 自己評価をする。 (2) ふりかえりをする。 (3) 後片付けを行う。	○学習カードを使ってできるようになったことや友だちの良かった所などのふりかえりを行い、次時への意欲がもてるようにする。 ○児童のふりかえりを共有し、次時につなげるようにする。 ○協力して安全に片付けができるように、役割を分担する。		・学習カード ・単元計画表 ・BGM